号外
マリインスキー歌劇場 オペラ・ニュース
Mariinsky Theatre Opera News Extra Edition
芸術総監督・指揮：ワレリー・ゲルギエフ マリインスキー歌劇場管弦楽団・合唱団

ディミトリー・コルチャック「エフゲニー・オネーギン」レンスキー役を語る

©rabovsky.ru

今秋、ゲルギエフ指揮マリインスキー・オペラ来日公演で「エフゲニー・オネーギン」レンスキー役で出演する、人気急上昇中の若手テノール、ディミトリー・コルチャックが新国立劇場「ウェルテル」題名役で急遽来日。レンスキー役への意気込みを聞きました。

「オネーギン」の音楽と物語が持つ深さ、美しさをお伝えしたい

この秋、ロシアの歌劇場であるマリインスキー歌劇場が「エフゲニー・オネーギン」を日本で上演するということは、わたしにとって、とても嬉しいことです。

新国立劇場でタイトルロールをつとめる「ウェルテル」と、秋に上演する「エフゲニー・オネーギン」。この2つのオペラは、共に、リブレットを偉大な詩人が書いています。ゲーテとプーシキンの根底に流れているのは「詩」の世界であり、詩人が作品の中で描こうとしたのは、愛、悲劇、男、女、夢、一方的な愛や答えの無い愛など、人間に渦巻く、様々な感情ではないでしょうか。

わたしの歌うウェルテル、レンスキーという役柄は、共に「詩人」です。これらの作品に登場する「詩人」という役、そして歌手に求められていることは、登場人物の誰よりも多く、内側で熱く渦巻く感情の数々を表現することだと感じています。偉大な詩人の言葉一つ一つに丁寧に寄り添い、様々な声の音色を使い分け、そこに込められた意味を、柔らかく、そしてドラマティックに表現していきたいと思っております。

ロシア音楽をいかにして歌い上げるか知り尽くした素晴らしい歌手たちと共に、プーシキンのひと言ひと言を理解して作りあげるマリインスキー歌劇場のプロダクション。この音楽と物語の深さや美しさを必ずや皆様にご理解頂けることでしょう。そしてマエストロ・ゲルギエフの力により、素晴らしい公演になることをお約束致します。

Text: Yokano

コルチャックのレンスキーは昨秋、ウィーン国立歌劇場でも絶賛された。

チャイコフスキー
<ロシア語上演 ／日本語字幕付>
エフゲニー・オネーギン 全3幕
10月16日(日) 14:00 東京文化会館
指揮：ワレリー・ゲルギエフ 演出：アレクセイ・ステパニュク

オネーギン：ローマン・ブルデンコ
タチヤーナ：エカテリーナ・ゴンチャロワ
レンスキー：ディミトリー・コルチャック
オルガ：ユリア・マトーチュキナ
グレーミン侯爵：ミハイル・ペトレンコ

その他公演 ◆10/15「エフゲニー・オネーギン」 ◆10/10、12「ドン・カルロ」

S ¥43,200 A ¥36,700 B ¥27,000（僅少） C, D売切
ゲルギエフ・シート（学生席） ¥5,400（税込）

お申込：ジャパン・アーツぴあ 03-5774-3040 www.japanarts.co.jp